

練馬区における小中一貫教育の評価方法について

小中一貫教育校検証部会

1 評価の目的

各校および教育委員会が、小中一貫教育の取組の成果と課題を把握し、取組内容や取組方法を見直して改善につなげていくため

2 練馬区の小中一貫教育がめざすもの

- (1) 授業改善による学力や体力の向上
- (2) 連携指導による豊かな人間性や社会性の育成
- (3) 滑らかな接続による安定した学校生活

3 小中一貫教育の評価に関する考え方

(1) 大泉桜学園の検証手法の応用

小中一貫教育校大泉桜学園の検証にあたっては、全保護者や3～9学年の児童生徒を対象とする意識調査や多くの教職委員等に対するヒアリングなど、検証データを収集するために特別な調査を実施した。練馬区で取り組む小中一貫教育を全般的に評価する際に、評価のための特別な調査を実施することは困難であるが、類似の手法を取り入れることは可能である。

(2) 練馬区の小中一貫教育の評価に活用する資料

小中一貫教育校大泉桜学園の検証項目と練馬区の小中一貫教育がめざすものを対応させて、それぞれの検証項目で用いた検証資料を参照すると(別紙1)、練馬区の小中一貫教育の評価に活用できる資料の候補として、

全校で実施する学校評価アンケート

教員意識調査

全国学力学習状況調査・練馬区学力調査

東京都児童・生徒体力、運動能力、生活・運動習慣等調査

不登校出現率

が考えられる。このうち、～の資料については、大泉桜学園の検証においても指摘されたように、学力調査等は実施年度により対象となる児童生徒が異なり、経

年比較を行うことが困難であること、不登校にはさまざまな原因や背景があり、小中一貫教育の取組によって対応を充実させても、それだけでは解決しきれない事例があることなどを踏まえ、学力調査結果や不登校出現率を小中一貫教育の評価指標に用いることは必ずしも妥当ではないと判断した。

4 評価方法

(1) 学校評価を活用した評価

各小・中学校が実施している学校評価において、各グループの取組状況に応じて、小中一貫教育に関する項目を必ず入れることとする。小中一貫教育に関する項目は、小中一貫教育実践校グループのなかで統一的な項目とすることを推奨する。

学校評価に小中一貫教育に関する項目を設定するにあたっては、年度当初に各グループにおいて、小中一貫教育がめざすものを踏まえて取組の重点目標を定め、その重点目標に応じて質問項目を設定することにより、できるだけ当該年度に実施した取組の評価が得られるような形で工夫することとする。

4月	各グループで今年度の重点目標を定める
12月	重点目標に応じて学校評価の項目を設定する 結果を次年度の教育課程に反映させる

(質問例) 小中学校が協力して、児童生徒の教育に取り組んでいるか

学校は小中一貫教育の取組内容について、わかりやすく説明しているか

学校は、小中一貫教育の学習活動について情報を発信しているか

小中一貫教育がはじまり、授業の工夫や学習活動が充実してきたか

(2) 教務主任・主幹教諭に対するアンケート調査

練馬区教育委員会では、平成24年度以降、各校で選任された小中連携推進教員(連携クリエイター)に対して、小中一貫教育の成果を問う意識調査を行っている。しかしながら、連携クリエイターは、必ずしも学校全体の状況を把握する立場にある教員とは限らない。

そこで、練馬区教育委員会として小中一貫教育の成果と課題を把握するために、連携クリエイターに対する調査とは別に、全校(小学校・中学校・小中一貫教育校)の教務主任および主幹教諭に対して、小中一貫教育の成果と課題に関する記述式アンケート調査を実施することとする(アンケート案:別紙のとおり)。

5 評価にあたっての留意点

(1) 評価の重点

学校間の距離、学校規模、通学区域のあり方など、小中学校の置かれている状況はさまざまであり、全中学校区に一律の取組を求めるものではない。小中一貫教育の評価は、取組の回数や種類の多さではなく、どう取り組んだかについて重点をおいて評価すべきである。

(2) 調査結果の数値の取り扱い

各種調査結果の背景にはさまざまな要因があり、数値そのものよりも、なぜそのような数値が出たのかという原因を分析し、改善につなげることが重要である。原因分析のためには、ヒアリングや記述式アンケートなどによる意見の吸い上げが必要となる。

(3) 教育委員会としての評価

教育委員会が小中一貫教育の評価を行うにあたっては、学校における評価を集約するにとどまらず、小中一貫教育の取組に関する教育委員会の役割や学校への支援体制についても評価していく必要がある。

また、学校から出された課題については、課題の原因を分析し、改善につながるような手立てを教育委員会全体で検討することが重要である。

大泉桜学園の検証と小中一貫教育の評価方法

1. 練馬区の小中一貫教育がめざすもの

- (1) 授業改善による学力や体力の向上
- (2) 連携指導による豊かな人間性や社会性の育成
- (3) 滑らかな接続による安定した学校生活

2. 大泉桜学園の検証項目との対応

練馬区の小中一貫教育の評価にあたっては、これまで行ってきた大泉桜学園の検証方法を応用して評価を行うことが考えられる。

そこで、「練馬区の小中一貫教育がめざすもの」として掲げている3項目を、大泉桜学園の検証における7つの検証項目と対応させ、大泉桜学園の検証で用いた検証データを確認し、練馬区の小中一貫教育の評価に応用できるかどうかについて検討を行った。

練馬区の小中一貫教育がめざすもの	大泉桜学園の検証項目
(1) 学力や体力の向上	9年間を見通した教育課程による学習指導および生活指導の充実
	小中学校教員の相互協力による学力・体力の向上等の高い教育効果
(2) 豊かな人間性や社会性の育成	幅広い異年齢集団による豊かな人間性・社会性の育成
(3) 安定した学校生活	9年間を見通した教育課程による学習指導および生活指導の充実
	小学校から中学校への円滑な移行による安定した学校生活

(1) 学力や体力の向上

【大泉桜学園の検証における検証項目および検証データ】

検証項目 1 9年間を見通した教育課程による学習指導および生活指導の充実

- (1) 9年間を見通した学習指導

検証データ 検証アンケート（教員、保護者、学校関係者）

（設問）大泉桜学園では、1～9年生までを見通した学習指導を行うよ

うに努めていると思いますか

検証データ 教員意識調査

(設問)小中一貫教育校の経験を通して、日々の授業で9年間の系統性を意識するようになるなど、自身の授業改善につながっていると思いますか

検証データ 教員ヒアリング

検証項目 4 小中学校教員の相互協力による学力・体力の向上等の高い教育効果

(1) 小中合同の校内研究

検証データ 教員ヒアリング

(2) 学力調査結果

検証データ 全国学力学習状況調査(全国の平均正答率との比較)
練馬区学力調査(練馬区の平均正答率との比較)

(3) 体力等調査の結果

検証データ 東京都児童・生徒体力、運動能力、生活・運動習慣等調査
(東京都の平均を上回った項目)

(2) 豊かな人間性や社会性の育成

【大泉桜学園の検証における検証項目および検証データ】

検証項目 3 幅広い異年齢集団による豊かな人間性・社会性の育成

(1) 合同学校行事

検証データ 検証アンケート

(設問)運動会で上級生を目標にしたりお手本にしたりしましたか

(設問)運動会で下級生の目標や手本になることを意識しましたか

検証データ 学校評価アンケート

(設問)運動会を全校で一緒に行うことは、来年度も続けたいですか

検証データ 検証アンケート(教員、保護者、学校関係者)

(設問)1~9年生が一緒に運動会や桜祭を行うことは、子供たちの成長にとってよいことだと思いますか

検証データ 運動会・桜祭に対する自由意見

(2) 異学年交流・たてわり活動

検証データ 検証アンケート

(設問)交流給食などで、3年生以下の学年と7年生以上の学年が交流することは、子供たちの人間性や社会性の育成につながると思いますが

検証データ 学校評価アンケート(児童生徒)

(設問)飯ごう炊さんやたてわり遠足などは、これからも続けたいと思いますか

検証データ 学校関係者・教員ヒアリング

(3) 安定した学校生活

【大泉桜学園の検証における検証項目および検証データ】

検証項目 1 9年間を見通した教育課程による学習指導および生活指導の充実

(3) 9年間を見通した生活指導

検証データ 検証アンケート

(設問)大泉桜学園では、1～9年生までを見通した指導と見守りに努めていると思いますか

検証データ 教員ヒアリング

検証項目 2 小学校から中学校への円滑な移行による安定した学校生活

(4) 小中教員の協力体制

検証データ 検証アンケート

(設問)7～9年の生徒が1～6年担当の先生と関わりをもつことが、生徒の学校生活の安定につながっていると思いますか

検証データ 教員ヒアリング

(5) 学校生活への満足度と不登校数

検証データ 学校評価アンケート

(設問)学校に楽しく通っていますか

検証データ 学校生活満足度調査

(設問)あなたは、友達にいやなことを言われたことがありますか

(設問)クラスの中に、あなたの気持ちを分かってくれる人はいますか

検証データ 不登校出現率

小中一貫教育の成果と課題に関するアンケート
(教務主任・主幹教諭対象)

このアンケートは、貴校のグループにおける小中一貫教育の成果と課題を把握するために、教育委員会が実施するものです。あなたご自身が感じていることを率直にお書きください。選択肢を参照していただき、成果や課題に関する自校での状況などについて、できるだけ具体的に記述していただきますようお願いいたします。

1 自校のグループにおける小中一貫教育の取組の成果は何だと思えますか

(成果の例)

- 小・中学校間の学習指導法に関する相互理解が進んでいる
- 授業改善や指導方法の工夫につながっている
- 児童・生徒の学習意欲が向上している
- 児童の中学進学への期待感が高まったり不安感が緩和されたりしている
- 児童・生徒の生活態度が改善してきている
- 不登校児童・生徒への対応または不登校未然防止にむけ、小中学校が連携・協力して取り組むようになっている

2 自校のグループにおける小中一貫教育に関する課題は何だと思えますか

(課題の例)

- 目の前の授業計画に精一杯で、9年間を見通した学習指導に十分に取り組めていない
- 小中一貫教育が一部の教員の取組にとどまり、学校全体の取組となっていない
- 小中一貫教育の取組や具体的な内容について、保護者や地域に十分に伝わっていない
- 教員が小中一貫教育の成果を実感できていない
- 小中一貫教育の取組を推進するための予算が十分でない
- 小中一貫教育の推進に向けた教育委員会からの支援が十分でない